



令和 6 年度（2024.4～2025.3）

日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト
（NipCA プロジェクト）

Nippon-Foundation Central Asia-Japan Human Resource
Development Project

事業報告書（概要）

筑 波 大 学

事業 ID: 2024014926

令和 6 年度（2024.4～2025.3） 「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト（NipCA）」 活 動 概 要

筑波大学は、大学の世界展開力強化事業「ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム」（2014.3～2019.3）の教育レガシーの一部を継承・発展させた新しいグローバル人材育成事業として、公益財団法人日本財団から教育・研究助成を受け、2019年1月から「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト」（以下、NipCA プロジェクト）を開始し、2024年4月から6年目を迎えました。

本事業は、日本財団、日本・中央アジア友好財団（JACAFA）、筑波大学の三者が協力・連携し、中央アジア（アゼルバイジャン、ジョージアを含む7カ国）地域の「持続可能な開発目標 SDGs」の達成と当該地域社会の課題解決に貢献できる人材の育成を目的としています。プロジェクト6年目となる2024年度は、本学 NipCA プロジェクト運営委員会（委員長：加藤 光保 副学長・理事【教育担当】、副委員長：池田 潤 副学長・理事【国際担当】、副委員長：原 晃副学長・理事【医療担当】、附属病院長）で承認を受けた事業計画に基づき、大学執行部の指導の下、プロジェクト実務責任者1名（教授）、プロジェクト相談役2名（教授）、プロジェクト実務副責任者3名（教授2名、准教授1名）、プロジェクト専従教員1名（助教）、コーディネーター1名（University International Administrator）、研究員4名（9月までに3名退職、6月1日付で1名雇用）、事務スタッフ3名で実務・運営を行いました。

活動内容としては、2024年度も①日本財団、JACAFA、筑波大同窓生ネットワーク連携活動、②中央アジア・日本の双方向の教育・研究交流、③中央アジアに関係する国内外のネットワーク強化や公開シンポジウム等による教育・研究成果の社会への還元を目指した基盤構築活動の3つをプロジェクトの柱として展開しました。

2024年度は、中央アジア及びアゼルバイジャン出身の優秀な留学生を筑波大学大学院人文社会科学系国際公共政策学位プログラム（博士前期課程）の正規学生として受け入れていた昨年度までの体制から、博士前期課程に2枠（うち日本人枠1名）及び博士後期課程に3枠（うち内部進学枠1名）を増設し、受け入れ対象国にジョージアを加えるなど事業を拡張しました。プロジェクトで受け入れた留学生全員に対しては、NipCA プロジェクトのフェローシップ生として、渡航費、学費、寮費、生活費を支給し、安心して学位取得のための勉学に打ち込める環境を用意しています。2021年3月には第1期 NipCA フェロー生6名（1名は病気により在学延長し、9月修了）、2022年10月には第2期 NipCA フェロー生7名（新型コロナウイルス感染症の影響による来日の大幅な遅れを考慮し、特別に修学期間を半年間延長）、2023年9月には第3期 NipCA フェロー生6名（新型コロナウイルス感染症の影響による来日の大幅な遅れを考慮し、特別に修学期間を半年間延長）、2024年3月には第4期 NipCA フェロー生8名（大学院人間総合科学研究群の公衆衛生学学位プログラム入学者1名を含む）、2025年3月には国際公共政策学位プログ

ラムで学んだ第5期 NipCA フェロー生 8 名が修士課程を無事修了しました。6 年間で合計 35 名が学位を取得し（修士／国際公共政策 34 名、公衆衛生 1 名）、将来、中央アジア諸国・地域の各界のリーダーとして社会課題解決に資する有為の人材になることが期待されます。2024 年 10 月には第 6 期 NipCA フェロー生 10 名（博士前期課程 7 名、博士後期課程 3 名）も入学しました。フェローシップ生たちの研究活動を支える目的で、SDGs 英語文献を購入し、NipCA プロジェクト SDGs 資料室の整備も行い、フェローたちが研究活動に利用しています（2024 年 9 月より学内改修工事の影響で 2024 年度末まで閉室。その間は別棟に自習室を確保し勉学のための環境をフェローに提供）。

本年度のプロジェクトは、対面を中心に活動を展開しました。7 月にはウズベキスタン・政府系シンクタンク代表団が本学を訪問し、教育・科学分野における協力の可能性について協議されました。また教育活動においては研修プログラムを充実させ、2024 年 7 月に NipCA フェロー 5 期生のための「日本企業インターンシップ I」（北海道研修）と 2025 年 2 月には NipCA フェロー 6 期生のための「中央ユーラシア SDG s 演習 I」（沖縄研修）を実施しました。その他、アルファラビ・カザフ国立大学とウズベキスタンから受け入れた 17 名の交換留学生を主対象とした「日本企業インターンシップ II」を実施し、横浜に本社を置きフォークロア文化のイメージを基軸に展開する衣料ブランドである株式会社 Amina Collection の協力の下、企業理念・経営理念や業務の現場等について学ぶ機会を得ました。日本人学生を対象とした研修では夏季休業期間にキルギス共和国日本人材開発センターとの協力でキルギスにおけるロシア語研修を実施し学群生 3 名を派遣しました。またカザフスタンでは、アルファラビ・カザフ国立大学においてカザフ語を学修する語学研修を新規で開講し、学群生 1 名と院生 1 名が参加しました。その他、日本人学生用プログラムとして開講されながらもコロナ禍で中止となっていた「海外プロジェクト研修（キルギス）」も再開し学群生 1 名を派遣しました。春季休業期間にはカザフスタンにおける海外ロシア語プロジェクト研修に学群生 8 名が参加し語学のスキルアップと多文化共生に対する理解を深めました。医療視察研修に参加した医学群の学生 8 名もアルマトイとアスタナの医科大や医療機関を訪問し、知見を広げました。またキルギス共和国日本人材開発センターおよび JICA タジキスタン事務所との連携では「海外インターンシップ研修」を実施し、それぞれ学生 1 名ずつを派遣することができました。

中央アジア地域関連大学とのネットワーク構築事業に関しては、5 月にバクー国立大学（アゼルバイジャン）、8 月にタジク国立大学（タジキスタン）、オグス・ハン記念トルクメニスタン工科大学（トルクメニスタン）と新たに大学間協定を、タジク外国語国際大学（タジキスタン）とは部局間協定を締結するなどネットワークの拡大も順調に進んでおります。10 月には、恒例となった JACAFA 日本研修プログラム（フェロー 4 名受入）も行い、「Japan Eurasia Exchange Forum 2024 - Human Resource Development and Innovation in Eurasia」の開催により JACAFA フェローと本学の中央アジアからの留学生、中央アジアに関心を持つ日本人学生との交流を促進することができました。フォーラムの翌日には昨年同様に五十嵐立青つくば市長の表敬訪問も行われました。

学内のイベントでは、昨年に続きグローバル・コモンズとの共催で奇数月の第3火曜に中央アジア各国を英語で紹介するイベント「Borderless Onsite Meeting」を NipCA フェローや中央アジアからの交換留学生の協力により6回実施しました（5月カザフスタン、7月ジョージア、9月アゼルバイジャン、11月ウズベキスタン、1月キルギス、3月エストニア）。

上記の対面活動に加えて、コロナ禍で培ったオンラインのノウハウを活用して、1年目から続く公開講演会シリーズ「中央ユーラシアと日本の未来」も第53回まで実施しており、オンライン開催という場所を問わない気軽さから多くの聴講者に参加していただいています（7月29日に予定していた「新入生に贈る特別講演会」は講演者の都合により中止）。

その他、NipCA プロジェクト教員による国内外の学会への参加や海外協定校での出前講義など、中央ユーラシア研究ユニットによる研究活動および社会貢献活動も充実させています。こうしたイベントの活動は、全て本プロジェクト HP (<https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp>) において、日本語・英語・ロシア語による活動報告を掲載しています。

NipCA プロジェクト6年目は、これまで輩出してきた NipCA フェロー帰国後に活躍する機会開拓の一環として、国際機関や在外公館との協力関係および情報共有環境を強化し、人材活用支援に資する活動にも尽力して参りました。最後に、これら NipCA プロジェクトの活動に対し、日頃より多大なご支援とご理解を賜っている公益財団法人日本財団の笹川陽平名誉会長、森祐次前常務理事をはじめ、尾形武寿会長、笹川順平理事長、有川孝常務理事、勝俣創介国際事業部チームリーダー、同事業部の松尾雅子氏、そして日本・中央アジア友好財団（JACAFA）のヴルボスキ京子会長に対して、また両財団の関係者の皆様に対して衷心より感謝申し上げます。

「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト（NipCA）」

令和 6（2024）年度 活動計画および活動実績(2024.4～2025.3)

項目	活動計画	活動内容
NipCA プロジェクト継続 (2024 年 4 月)	2024 年 4 月から「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト（NipCA）」6 年目を開始する。	公益財団法人日本財団から教育・研究助成を受け、2024 年 4 月から「日本財団中央アジア・日本人材育成プロジェクト（NipCA）」6 年目を開始した。
運営体制の維持・継続 (2024 年 4 月～)	学位取得を目的とする正規留学生の受入業務では修士に加え、博士課程での学生受入れという新しいミッションを持った NipCA プロジェクトを軌道に乗せ、事業を安定的に推進し、本プロジェクト運営を確実なものにするために、前年度と同程度以上の教職員数の雇用を進める。	① 本プログラム担当専任准教授（SDGs 関連科目、インターンシップ科目等の教育業務、プロジェクト全体の企画・運営の推進等）を 1 名継続雇用した。 ② 本プログラム担当専任助教（SDGs 関連科目、インターンシップ科目等の教育業務、プロジェクト全体の企画・運営の推進等）を 1 名新規雇用した。 ③ University International Administrator（UIA）を NipCA プロジェクトコーディネーター、広報・企画・運営等担当として 1 名継続雇用（2024 年 7 月 31 日退職済み）した。8 月 1 日より④の非常勤研究員 1 名を UIA として雇用した。 ④ 非常勤研究員（中央ユーラシア留学生学務・生活支援担当、中央ユーラシア海外研修・海外インターンシップ等国際交流実務支援担当、論文指導サポート担当）を 4 名（3 名継続、1 名新規）雇用した。継続雇用の 3 名は 2024 年 6 月 30 日、7 月 31 日、8 月 31 日退職済み（うち 1 名は 8 月 1 日より③の UIA として雇用）。非常勤事務職員（会計、総務、広報担当）を 3 名（うち 1 名は 2024 年 9 月 15 日に退職済み）継続雇用した。
広報活動 (2024 年 4 月～)	本事業を学内外に広く広報するため、ニューズレター作成、およびウェブサイトや SNS での広報活動を行う。	① NipCA プロジェクトのウェブサイトで、日本語・英語・ロシア語による情報発信を行った。 【https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp/】
公開講演会 「中央ユーラシアと日本の未来」	本事業の広い意味での地域社会貢献と、NipCA プロジェクトのフェローシップのみならず、学内の教	「日本財団中央アジア・日本人材育成プロジェクト」主催連続公開講演会「中央ユーラシアと日本の未来」をオンラインで開催。当日ライブ視聴できなかった視聴者のために、manaba にて 2 週間限定

(2024 年 5 月～)	職員、学外の研究者・学生たちへの問題意識の喚起を促す目的で、中央ユーラシア地域と日本が抱える社会的な課題や地球規模的課題に係るテーマで、有識者による公開講演会を実施する。筑波大学 SGU 事業の一環として実施。	で講演動画を配信した。 ① 講師：片山 弘倫 氏（ユネスコ本部 教育局プログラムスペシャリスト） テーマ：中央アジア・コーカサス地域における能力開発と職業訓練 開催日：2024 年 8 月 8 日（木）13:45～15:00 会場：Zoom 申込者数 64 名（参加者数 37 名） ② 講師：宗野 ふもと 氏（筑波大学 人文社会系助教） テーマ：ウズベキスタンの暮らしの変化と手工芸：毛織物生産の事例から 開催日：2024 年 12 月 20 日（金）15:15～16:30 会場：Zoom 申込者数 105 名（参加者数 57 名） ③ 講師：駒崎 万集 氏（ドゥタール奏者） テーマ：ウズベキスタン・タジキスタンの音楽 開催日：2025 年 1 月 27 日（月）18:15～19:30 会場：筑波大学スチューデント・コモンズ（1A 棟 203）／オンライン（Zoom） 申込者数 118 名（参加者数 40 名／オンライン 54 名） ④ 講師：谷口 智彦 氏（筑波大学 特命教授） テーマ：価値の言辞と日本外交・いつから・これから 開催日：2025 年 2 月 21 日（金）15:15～16:30 会場：Zoom 申込者数 71 名（参加者数 44 名） ⑤ 講師：松元 晶 氏（北海道大学大学院文学院博士課程 3 年） テーマ：ソ連～現代中央アジア映画の足跡を追う：イデオロギー、戦略、映画の開花 開催日：2025 年 2 月 27 日（木）15:15～16:30 会場：Zoom 申込者数 73 名（参加者数 45 名）
----------------------	--	--

日本財団事業評価 (2024 年 5 月～)	NipCA プロジェクト 5 年間 (2019 年～2023 年度) の助成事業に対して、三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社政策研究事業本部 経済財政政策部による日本財団事業評価開始。 (評価調査期間：2024 年 7 月～2025 年 2 月)	評価調査前の事前ヒアリング 日時：2024 年 5 月 7 日 (木) 10:30～11:45 会場：Zoom 出席者：渡邊 恵子 (三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング)、國光 智子 (三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング)、山口 領 (日本財団 監査部)、臼山 利信 (人文社会系長 教授・NipCA プロジェクト実務責任者)、ダダバエフ・ティムール (人文社会系 教授・NipCA プロジェクト実務副責任者)、塩谷 哲史 (人文社会系 教授・NipCA プロジェクト実務副責任者)、山本 祐規子 (人文社会系 准教授・NipCA プロジェクト実務副責任者)、宗野 ふもと (人文社会系 助教・NipCA プロジェクト 担当教員)、梶山 祐治 (学生部 University International Administrator ・NipCA プロジェクト コーディネーター)、徳田 由佳子 (NipCA プロジェクト 非常勤研究員)、谷越 祥子 (NipCA プロジェクト 非常勤職員)、生永 妙子 (NipCA プロジェクト 非常勤職員) 評価ヒアリング 日時：2024 年 9 月 11 日 (水) 15:00～18:00 場所：筑波大学 1C 棟 人文社会系長室 出席者：渡邊 恵子 (三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング)、國光 智子 (三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング)、臼山 利信 教授、山本 祐規子 准教授、宗野 ふもと 助教、徳田 由佳子 NipCA プロジェクトコーディネーター、谷越 祥子 非常勤職員
Borderless Onsite Meeting (2024 年 5 月～)	国際局グローバル・コモンズとの共催で、奇数月の第 3 火曜日の昼休み時間を活用し、留学生と本学学生・教職員の英語による交流の場を設ける。NipCA フェローの出身国を含む、カザフスタン、キルギス、ウズベキスタン、タジキスタン、トルクメニスタン、アゼルバイジャン、ジョージアの 7 か国について、留学生に自国を紹介してもらい、参加者に中央アジアの国々に親しんでもらう機会を提供する。	① 発表者：トゥルスナリエヴァ・アジャル (第 5 期 NipCA フェロー) テーマ：Steppe Culture of Kazakhstan 開催日：2023 年 5 月 28 日 (火) 12:20～13:00 場所：スチューデント・コモンズ 参加者：40 名 ② 発表者：チカヴァ・セシリ、トゴニゼ・マリアム (特別聴講学生) テーマ：Georgia: SAKARTVELO (Name of the Country called by locals) 開催日：2024 年 7 月 16 日 (火) 12:20～13:05 場所：スチューデント・コモンズ 参加者：18 名

		③ 発表者：ハサノヴァ・ナルギズ（第5期 NipCA フェロー） テーマ：: Azerbaijani music – the rhythm of soul- 開催日：2024年9月17日（火）12:20～13:00 場所：スチューデント・コモンズ 参加者：28名 ④ 発表者：ミラキロヴァ・ファティマ（第5期 NipCA フェロー） テーマ：Exploring the Heart of Central Asia: The Treasures of Uzbekistan 開催日：2024年11月19日（火）12:20～13:00 場所：スチューデント・コモンズ 参加者：27名 ⑤ 発表者：オトウクルベクキジ・アクライ（第6期 NipCA フェロー） テーマ：Exploring Kyrgyzstan: Land of Nomads, Revolutions, and Majestic Mountains 開催日：2025年1月31日（火）12:20～13:00 場所：スチューデント・コモンズ 参加者：25名 ⑥ 発表者：ミーア・ミカエラ・ポッル（特別聴講学生） テーマ：Estonia: Where Medieval Charm Meets Digital Innovation 開催日：2025年3月18日（火）12:20～13:00（予定） 場所：スチューデント・コモンズ 参加者：14名
トルクメニスタン円卓会議 (2024年6月)		実施日：2024年6月14日（金） NipCA プロジェクトの広報
日本企業インターンシップⅡ (2024年6～7月)	人文社会科学研究群国際公共政策学位プログラム開設科目である「日本企業インターンシップⅡ」（1単位）の教育活動として、株式会社アミナコレクションで研修を実施する。	実施日：2024年6月18日（火）、7月17日（水）、7月31日（水） 訪問先：株式会社アミナコレクション本社、店舗、SBS 新杉田物流センター 参加者：短期交換留学生 17名（アルファラビ・カザフ国立大学 14名、ウズベキスタン国立世界言語大学 1名、サマルカンド国立外国語大学 1名、タシケント国立東洋学大学 1名） ウズベキスタン出身国費留学生 1名、第5期 NipCA フェロー6名 合計 24名 担当教員：株式会社アミナコレクション 守光 美保（運用管理部部

		長)、相馬 拓也(京都大学 白眉センター特定准教授)、山本 祐規子(人文社会系 准教授)、宗野 ふもと(人文社会系 助教)
ウズベキスタン・政府系シンクタンク代表団受入 (2024 年 7 月)	ウズベキスタン・日本間の教育・研究、経済面での協力関係構築に係る議論の機会を提供する。	日時：2024 年 7 月 10 日(水) 17:00-18:30 会場：筑波大学本部棟 5 階大会議室 日本側出席者：池田 潤(理事・国際担当副学長)、大根田 修(国際局長)、臼山 利信(人文社会系長)、ダダバエフ・ティムール(人文社会系 教授)、塩谷 哲史(人文社会系 准教授)、宗野 ふもと(人文社会系 助教)、梶山 祐治(学生部 UIA) ウズベキスタン：Mr. Alisher Paygamov - Administration of the President of the Republic of Uzbekistan Mr. A. Tilavov - Administration of the President of the Republic of Uzbekistan Dr. S. Valiev - Acting Director of the Information and Analytical Center for International Relations under the Ministry of Foreign Affairs of Uzbekistan Dr. U. Abidkhodjaev - Director of the Institute of Macroeconomic and Regional Studies under the Cabinet of Ministers Dr. B. Mustafayev - Deputy Director of the Institute for Strategic and Interregional Studies under the President of the Republic of Uzbekistan Dr. M. Kholmukhamedov - Deputy Director of the Center for Economic Research and Reforms under the President of the Republic of Uzbekistan Dr. F. Kadirov - Deputy Director of the International Institute for Central Asia Dr. A. Umarov - First Vice-Rector for Academic Affairs at the University of World Economy and Diplomacy Mr. A. Musokhoni - Chief Scientific Officer of the Information and Analytical Center for International Relations under the Ministry of Foreign Affairs of Uzbekistan Ms. Abdurasulova Mekhriniso - Leading Research Fellow at the Center for Asia-Pacific Studies at the Institute for Advanced International Studies (IAIS)
日本企業インターンシップ I (北海道研修) (2024 年 7 月)	人文社会科学系研究群国際公共政策学位プログラム開設科目である「日本企業インターンシップ I」(1 単位)の教育活動として、北海道研修を実施する。	実施期間：2024 年 7 月 10 日(水)～13 日(土) 訪問先：新篠津村役場、しんしのつ天文台、ファーム・インよねばやし(農家業務体験)、北海道大学総合博物館、北海道ニセコ高等学校、合同会社 Hikobayu(林業体験)、ニセコ HANAZONO リゾート、民族共生空間ウポポイ 参加者：第 5 期 NipCA フェロー8 名、山川教授、山本准教授、勝俣

		創介（日本財団）、谷越 祥子（NipCA 事務補佐員）、稲田 喬晃（カメラマン） 授業担当教員：山川 和彦（麗澤大学）山本 祐規子（人文社会系 准教授）、臼山 利信（人文社会系 教授）
NipCA フェローキルギス同窓会 （2024 年 7 月）	同窓生ネットワークの維持、強化のため、キルギス出身 NipCA フェローを集め、修了後の進路等、近況報告の機会を設ける。	日時：2024 年 7 月 22 日（月）18:30～20:30 場所：カフェ Bublik 参加者：スイウンベコヴァ・サイカル（第 2 期フェロー）、アイティムベトヴァ・アイダイ（第 4 期フェロー）、アルチンベク キジ・チヨルボン（第 4 期フェロー）、津谷 菜保子（学生交流課）、梶山 祐治（NipCA プロジェクトコーディネーター）
2024 年度 新入生に贈るオンライン特別講演会 （2024 年 7 月） 講演者の都合により中止	新入生のため、特別講演会をオンラインで開催する。	新入生のため、今後のキャンパスライフへの活力と知的好奇心の向上に繋げられるような機会を提供する。主催は筑波大学 NipCA プロジェクトにより、グローバル・コモンズ、グローバルコミュニケーション教育センター、スーパーグローバル大学（SGU）事業推進室との共催、筑波大学学生部、国際室との協力でオンラインにて開催する。当日ライブ視聴できない学生のために、manaba にて 2 週間限定で講演動画を配信する。 講師：當作 靖彦 氏（カリフォルニア大学サンディエゴ校 名誉教授） テーマ：大学教育・学習における生成 AI その可能性と限界 日時：2024 年 7 月 29 日（月）13:45～15:00 を予定していたが講演者の体調不良により中止。 会場：Zoom 申込者数 88 名（7 月 29 日現在）
海外プロジェクト研修 （国際協力体験プログラム） （2024 年 8 月）	地域研究としての観光学を学ぶ。また国際ボランティアなど実践的な活動を通して地域に根差した国際協力の在り方への理解を深める機会を学生に提供する。帰国後は留学報告会を実施する。	実施期間：2024 年 8 月 5 日（月）～8 月 18 日（日） 場所：キルギス共和国日本人材開発センター、カザフスタン日本人材開発センター他 参加者：山本 貴世（社会・国際学群 国際総合学類 2 年）
中央アジア 3 大学との国際交流協定締結 （2024 年 8 月）	政府案件となっているオグズ・ハン記念トルクメニスタン工科大学をはじめ、中央アジア諸国の大学との交流拡大・深化を促進する目	第 6 回中央アジア首脳会議に合わせ、2024 年 8 月 9 日（金）カザフスタン（アスタナ市）において 3 大学と国際交流協定を締結した 【大学間協定】 ・オグズ・ハン記念トルクメニスタン工科大学（トルクメニスタン）

	的で大学間協定を締結する。	・タジク国立大学（タジキスタン） 【部局間協定】 ・タジク外国語国際大学（タジキスタン） 出席者：永田 恭介（学長）、白山 利信（人文社会系長）、日比生 直樹（国際室係長）
海外語学研修 （カザフ語・ロシア語研修） （2024 年 8～9 月）	学生に対し、現地でのカザフ語・ロシア語学習の機会を提供するため、カザフスタンにおいて研修を実施する。また、学生へのモチベーション付与を兼ねて、海外研修・留学報告会を開催する。	実施期間：2024 年 8 月 11 日（日）～9 月 7 日（土） 場所：アルファラビ・カザフ国立大学（カザフスタン共和国アルマトイ市） 参加者：池添 里彩（人文・文化学群 人文学類 4 年）、山形 澄香（人間総合科学学術院人間総合科学研究群公衆衛生学学位プログラム 2 年）
海外語学研修 （ロシア語・キルギス語研修） （2024 年 8～9 月）	学生に対し、現地でのロシア語・キルギス語学習の機会を提供するため、キルギスへの研修を実施する。また、学生へのモチベーション付与を兼ねて、海外研修・留学報告会を開催する。	実施期間：2024 年 8 月 19 日（月）～9 月 13 日（金） 場所：キルギス国立総合大学、キルギス日本人材開発センター 参加者：北川 裕樹（情報学群 情報メディア創成学類 1 年）、大河内 悠斗（理工学群 数学類 2 年）、林 仁（社会・国際学群 社会学類 4 年）
筑波大学・クセインカラサエフ記念ビシュケク国立大学国際連携支援オフィス開所式、留学説明会 （2024 年 9 月）	キルギス全土を含む周辺各国に対し、NipCA プロジェクトおよび日本留学にかかる周知活動を展開する拠点としてオフィスを開設する。開所式後には NipCA プロジェクト、日本留学にかかる情報を広く提供し、興味喚起を促す。	実施期間：2024 年 9 月 25 日（水）～28 日（土） ① 留学保護者説明会 日時：2024 年 9 月 25 日（木）13:00～14:30 場所：TENSAI 日本学校（ビシュケク） 参加者：徳田 由佳子（NipCA コーディネーター）、伊藤 広宣（ビシュケク国立大学 教授・筑波大学キルギスオフィス コーディネーター） ② 筑波大学・クセインカラサエフ記念ビシュケク国立大学国際連携支援オフィス開所式 日時：2024 年 9 月 27 日（金）14:00～15:30 場所：クセインカラサエフ記念ビシュケク国立大学（ビシュケク） 出席者：合田 秀樹（キルギス共和国日本国特命全権大使）、池田 潤（理事・国際担当副学長）、ムサエフ・アブディルダ・イナヤトヴィチ（ビシュケク国立大学学長）、白山 利信（人文社会系長）、伊藤 広宣（キルギスオフィス・コーディネーター）、徳田 由佳子（NipCA コーディネーター）、アコマトベコワ・グリザット（キルギス共和国日本人材開発センタースタッフ）他

		③ NipCA プロジェクト・留学説明会 日時：2024 年 9 月 27 日（金）15:45～16:30 場所：クセイン カラサエフ記念ビシュケク国立大学（ビシュケク） 日時：2024 年 9 月 28 日（土）11:30～12:30 場所：オシュ国立大学（オシュ） 出席者：白山 利信（人文社会系 教授）、伊藤 広宣（キルギスオフィス・コーディネーター）
NipCA フェロ シップ生受入 （2024 年 10 月）	筑波大学大学院人文社会科学研究科国際地域研究専攻博士前期課程の入試合格者である第 6 期 NipCA フェロシップ生 7 名、博士後期課程合格者 3 名を受け入れる。	筑波大学大学院人文社会科学研究群国際公共政策学位プログラム博士前期課程に第 6 期 NipCA フェロシップ生 7 名、博士後期課程に 3 名が入学した。
JACAFA 日本研修 プログラム （2024 年 10 月）	NipCA プロジェクトと JACAFA（日本・中央アジア友好財団）と連携・協力し、JACAFA 同窓生のための日本研修プログラムを実施する。プログラムでは学生フォーラムの開催、本学の研究施設等視察、NipCA フェローや日本人学生との交流会、つくば市市長の表敬訪問等の機会を提供する。	実施期間：2024 年 10 月 9 日（水）～10 日（木） ① 日本研修（筑波大学） 日時：10 月 9 日（水）10:30～12:00 訪問先：エンパワースタジオ/プラズマ研究センター 参加者：JACAFA フェロー4 名、ヴルボスキ 京子 氏（JACAFA 会長）、ヴルボスキ・サソ 氏（JACAFA 副会長）、徳田 由佳子（NipCA コーディネーター）、バイラモフ・ベゲンチ（NipCA 支援学生） ② Japan Eurasia Exchange Forum 2024 -Human Resource Development and Innovation in Eurasia 日時：10 月 9 日（水）15:00～17:00 会場：筑波大学 1B 棟 408 報告者・題目： 1. Azhar Tursynaliyeva (NipCA Fellow 2023, University of Tsukuba) “Sustainability and inclusiveness: contribution of farmers’ knowledge in water management and agricultural development in Kazakhstan” 2. Elmira Hajiyeve (JACAFA Fellow, Azerbaijan) “Culture Differences in Workplace Dynamics Across Eurasia” 3. Rustam Zokirov (JACAFA Fellow, Uzbekistan) “Development of Human Resources in the IT Sphere in Uzbekistan” 4. Ruhafzo Rahmonova (JACAFA Fellow, Tajikistan) “My Journey to Passion” 5. Anar Iskandarov (JACAFA Fellow, Azerbaijan) “Recent Migration Trend in Eurasia”

		③ つくば市長表敬訪問 場所：つくば市役所 5F 市長応接室 日時：10月10日（木）11:30～11:45 参加者：JACAFA フェロー4名、ヴルボスキ 京子 JACAFA 会長、ヴルボスキ・サソ 副会長、山本 祐規子（人文社会系 准教授）
ウズベク大使館等訪問 NipCA フェローの就職支援 (2024年10月)	フェロー帰国後の就職活動支援の一環としてNipCAフェロー出身国の中央省庁、国際機関、在外公館等を訪問し、NipCAプロジェクトおよびプロジェクトが育成する人材像に関する周知活動を実施する。	実施期間：2024年10月28日（水）～10月29日（木） 白山教授が筑波大学訪問団に同行し、以下を訪問： ・在ウズベキスタン日本国大使館 ・高等教育サイエンスとイノベーション省 ・ウズベキスタン外務省 ・ウズベキスタン貿易、投資、産業省 ・ウズベキスタンデジタル担当相 他
ウズベキスタン留学フェア (2024年11月)	優秀な学生の獲得を目的として現地において学生とその保護者に対しNipCAプロジェクト、日本留学にかかる情報を広く提供し、興味喚起を促す。	実施期間：2024年11月5日（火）～11月8日（金） 場所：ウズベキスタン（タシケント、ブハラ、サマルカンド） 参加者：山本 祐規子（人文社会系 准教授・NipCA 実務副責任者）、須藤 嘉裕（国際室係長）、野澤 亜希子（学生交流課係長）、イスマイロフ・ムロド（人文社会系 准教授）、バイラモフ・ベゲンチ（NipCA 支援学生）
カザフスタン・キルギス留学フェア (2024年11月)	優秀な学生の獲得を目的として現地において学生とその保護者に対しNipCAプロジェクト、日本留学にかかる情報を広く提供し、興味喚起を促す。	実施期間：2024年11月11日（月）～11月12日（火） 場所：カザフスタン（アルマトイ） 2024年11月13日（水）～11月14日（木） 場所：キルギス（ビシュケク） 宗野 ふもと（人文社会系 助教・NipCA 専従教員）、日高晋介（人文社会系 准教授・NipCA 協力教員）、来栖 里美（国際室）、前野 志穂（学生交流課係長）、バイラモフ・ベゲンチ（NipCA 支援学生）
ウズベキスタン医科大・医療施設視察 (2024年11月)	中央アジアの大学・医療施設においてNipCAフルスカラシッププログラム（公衆衛生学位プログラム、国際公共政策学位プログラム）の周知活動を展開し、併せて視察も行う。	実施期間：2024年11月15日（金）～11月22日（金） 場所：ウズベキスタン（タシケント、サマルカンド） 出張者：平松 祐司（筑波大学医療担当副学長・附属病院長・日本医学医療国際交流財団 理事）、酒井 章（日本医学医療国際交流財団常務理事）、宗野 ふもと（人文社会系 助教・NipCA 専従教員）、大崎果歩（NipCA 非常勤研究員）

第6回運営委員会 (2024年11月)	Ge-NIS+「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト (NipCA)」 「ロシア・日本人材育成プロジェクト」 令和6年度第6回プロジェクト運営委員会を開催し、本プロジェクトの承認を受ける。	日時：2023年11月29日（火）14:00～15:00 会場：Zoom 出席委員：加藤 光保 理事・教育担当副学長・グローバル教育院長（運営委員会委員長）、池田 潤 理事・国際担当副学長（運営委員会副委員長）、平松 祐司 理事・医療担当副学長・附属病院長（小田 竜也 運営委員会委員・附属病院副病院長・医学医療系教授代理出席）、野呂 文行 大学執行委員・人間系長、臼山 利信 大学執行委員・人文社会系長・NipCA プロジェクト実務責任者、関 瑞穂 国際局調整役、木村 真生子 人文社会系ビジネス科学学術院長、栗原 克文 ビジネス科学研究群長、山口 恵里子 人文・文化学群長、近藤 正英 公衆衛生学学位プログラムリーダー・医学医療系教授、田宮 菜奈子 ヘルスサービス開発研究センター長・医学医療系教授、加藤 百合 NipCA プロジェクト相談役・人文社会系教授、塩谷 哲史 NipCA プロジェクト実務副責任者・人文社会系教授、山本 祐規子 NipCA プロジェクト実務副責任者・人文社会系准教授、鷹巣 明美 国司局グローバル・コモンズ担当課長、和田 裕二 人文社会エリア支援室長
日本ロシア語教育学会全国大会総会 (2024年12月)	日本ロシア語教育学会全国大会総会において、中央アジアにおけるロシア語・現地語研修推進のための交流イベントとしてラウンドテーブル等開催する。	日時：2024年12月7日（土）13：00～18：00 会場：筑波大学 生命環境科学研究科総合研究棟 A110 ① 基調講演 講師：境 一三 氏（獨協大学特任教授、慶應義塾大学名誉教授） 「新学習指導要領の施行による高大連携と大学での外国語教育への影響について」 ② 研究報告 報告者・題目 1. パリノヴァ・アンナ、ミソチコ・グリゴリー（京都外国語大学） 「ロシア語教育における多読の活用ー京都外国語大学の試みー」 2. ヴォイティシェク・エレナ（京都外国語大学） 「歴史文化的な文脈でのロシア語と日本語のことわざの学習」 3. 三好マリア（京都外国語大学） 「縮約作法から要約作法へ ～TORFL・B1 レベル作文対策を通じて～」 4. アファナシエヴァ・ナターリア（筑波大学） 「日本人学生に対する読解の授業について～教育現場からの経験に基づいて」

		③ ラウンドテーブル 「日本のロシア語教育の今：変わったこと・変わっていないこと」 報告者：横井 幸子（大阪大学）、菱川 邦俊（京都外国語大学）、佐山 豪太（上智大学）、小田桐 奈美（関西大学）、木寺 律子（京都産業大学）、臼山 利信（筑波大学）、山本 有希（富山高等専門学校）、依田 幸子（札幌国際情報高校）、福田 知代（早稲田大学高等学院・関東国際高校・都立北園高等学校）
地元高校生を対象にした SDGs の英語講義 (2024 年 12 月)	筑波大学の社会貢献活動の一環として、地元の高校生を対象に SDGs に関する連続講義を英語にて行う。	日時：2024 年 12 月 11 日（水）17:00～18:00 場所：土浦日本大学高等学校 講師：山本 祐規子（人文社会系 准教授） NipCA フェロー3 名（アブドゥラエフ・ショフルフ、ラヒモフ・マンスルベク、トゥルスナリエヴァ・アジャル） 同行
NipCA フェローに対する特別講義 (2024 年 12 月)	NipCA フェロー帰国後のキャリア形成の一助として、教育省、高等教育機関、内閣府など政府機関にも幅広いネットワークを有し、これらの機関におけるリクルートの現状等にも精通している講師を招聘し特別講義を行う。	実施期間：2024 年 12 月 16 日（月）～19 日（木） 場所：筑波大学 1C 棟 210 講義内容：中央アジアの国際政治、現状と課題、就職に関する助言 講師：Mirzokhid Rakhimov 氏 Head of Department at Contemporary History Center The Uzbekistan Academy of Sciences
世界経済外交大学に対する出前講義・修了書授与式 (2025 年 2 月)	世界経済外交大学（ウズベキスタン）の学生に対しオンライン講義（2024 年 9 月～2025 年 1 月）を実施し、優秀な学生を NipCA フェローとしてリクルートする。最終講義は現地で行い、修了書授与式も併せて開催する。	実施期間：2025 年 2 月 3 日（月）～2 月 6 日（木） 場所：世界経済外交大学 講師：ダダバエフ・ティムール（人文社会系 教授・NipCA プロジェクト実務副責任者） 修了生 68 名（Theories of International Relations コース 45 名、Introduction into Sustainability Science コース 23 名）
中央ユーラシア SDGs 演習 I （沖縄研修） (2025 年 2 月)	人文社会科学群国際公共政策学位プログラム開設科目である「中央ユーラシア SDGs 演習 I」（1 単位）の教育活動として、沖縄研修を実施する。	実施期間：2025 年 2 月 5 日（水）～8 日（土） 訪問先：八重山商工高等学校、ビーチクリーン 参加者：第 6 期 NipCA フェロー8 名、担当教員 2 名、勝俣 創介（日本財団）、生永 妙子（NipCA 事務補佐員）、稲田 喬晃（カメラマン） 授業担当教員：山川 和彦（麗澤大学）山本 祐規子（人文社会系 准教授）、臼山 利信（人文社会系 教授）

第6回外部評価委員会 (2025年2月)	Ge-NIS プログラムでの外部評価の経験を踏まえて、外部評価委員会が本プロジェクトの実施状況を評価するとともに、同委員会と本プロジェクト実務者が改善に向けた協議を行う。	日時：2024年2月19日（水）14:00～16:00 会場：筑波大学人文社会学系棟 A520 外部評価委員：當作 靖彦 氏（カリフォルニア大学サンディエゴ校教授）、小野澤 正喜 氏（育英短期大学 教授）、広沢 正行 氏（国際協力機構 東・中央アジア部長）石塚 恵 氏（外務省欧州局 中央アジア・コーカサス室 室長） 欠席：鬼塚 宏一 氏（つくば市長公室 国際都市推進課長）
海外インターンシップ (2025年2月～3月)	中央アジア地域の発展と繁栄を担う新しい人材群輩出の一助として在外の企業、研究所、非営利団体、教育機関等で実際の業務にインターンシップ生として一定期間従事し、海外での仕事に必要な語学力、および国際交渉力などの伸長を目指し実施する。帰国後は留学報告会を実施する。	① タジキスタン（ドゥシャンベ） 実施期間：2025年2月5日（水）～2月28日（金） 派遣場所：JICA タジキスタン事務所 参加者：坂岡 華（社会・国際学群 国際総合学類2年） ② キルギス（ビシュケク） 実施期間：2025年2月23日（日）～3月24日（金） 派遣場所：キルギス共和国キルギス人材開発センター 参加者：毛利 嘉宏（理工学群 応用理工学類1年）
海外語学研修 (ロシア語・カザフ語プロジェクト研修) (2025年2月～3月)	学生への現地でのロシア語・カザフ語学習の機会を提供し、現地学生との多文化共修教育を実施する目的で、カザフスタンへの研修を行う。また、学生へのモチベーション付与を兼ねて、海外研修および留学報告会を実施する。	実施期間：2024年2月23日（日）～3月22日（土） 場所：アルファラビ・カザフ国立大学（準備学部、東洋学部） 参加者：吉弘 有希（総合学域群 第一類1年）、吉村 桃子（社会・国際学群 社会学類1年）、藤岡 正吾（人文・文化学群 比較文化学類2年）、説田 あかり（人文・文化学群 比較文化学類2年）、大菅 佑真（社会・国際学群 国際総合学類2年）、中村 明日歌（人間学群 教育学類2年）、大河 内悠斗（理工学群 数学類2年）、池添 里彩（人文・文化学群 人文学類4年）
第5期笹川フェロー修了式 (2025年3月)	大学院修士課程を修了する第5期 NipCA フェローが、第5期笹川 NipCA フェロー修了式に出席し、日本財団笹川陽平会長に対して、帰国前にお礼と感謝の言葉を述べる機会を設ける。	筑波大学大学院人文社会科学系研究科国際地域研究専攻修士課程 Special Program in Japanese and Eurasian Studies(SPJES)を修了した第5期 NipCA フェロー8名、および現在同課程で勉強中の第6期 NipCA フェロー7名が日本財団笹川陽平会長を表敬訪問し、第5期 NipCA フェローには同会長より笹川 NipCA フェロー認定証が授与された。 欠席：博士課程で勉強中の第1期 NipCA フェロー3名 日時：2025年3月5日（水） 場所：日本財団ビル（東京都港区） 参加者：第5期 NipCA フェロー8名、第6期 NipCA フェロー7名、NipCA プロジェクト教員・スタッフ7名

海外プロジェクト研修 (2024 年 3 月)	医学群の学生を対象に、医学医療視察研修を実施し、カザフスタン（アスタナ・アルマトイ）の医科大学や医療機関、研究機関などを訪問する。	実施期間：2024 年 3 月 11 日（火）～3 月 22 日（土） 場所：アルファラビ・カザフ国立大学医学部・アスフェンディヤーロフ・カザフ国立医科大学、ナザルバエフ大学医学部、アスタナ医科大学付属小児リハビリセンター、国立衛生疫学研究所、カザフスタン栄養アカデミーの訪問および学生セミナーの開催、薬局等の視察他 参加者：梶本 遥希（医学類 2 年）、高石 紗楽（医学類 3 年）、坂本 智佳子（医学類 3 年）、谷 優貴子（医学類 3 年）、伊藤 功薫（医学類 3 年）、神谷 春菜（看護学類 4 年）、笠原 葉子（看護学類 4 年）、吉田 峻真（医療科学類 3 年） 引率（協力）教員：小林 佑介（医学医療系 准教授）、市川 政雄（医学医療系 教授）、宗野 ふもと（人文社会系 助教）、二ノ宮 崇司（アルマトイオフィス・コーディネーター）
NipCA プロジェクト主催「ロシア・中央アジア映画上映会」 (2025 年 3 月)	SDGs の理解促進と中央アジアの文化紹介を兼ねて、ロシア・中央アジアの未公開作品に字幕を付けて日本初上映し、解説も行う。	上映作品：監督 アイスルタン・セイト『逃げろ』（2023 年、120 分） カザフ語・ロシア語/日本語・英語字幕付き 日時：2025 年 3 月 21 日（金）19:20～22:00 作品解説：19:30～19:55 梶山 祐治（筑波大学 国際局 准教授）、東田 範子（武蔵野音楽大学 非常勤講師）「歴史の暗部を描くカザフ・ニューウェイヴ映画」 会場：Zoom 映画上映時間：20:00～22:00 上映会場：Vimeo（オンライン） 申込者数 388 名（参加者数 351 名）

資料1 NipCA フェローシップ生リスト

人文社会科学部 国際地域研究専攻（修士課程） Special Program in Japanese and Central Eurasian Studies

令和元（2019）年度 10 月入学者

「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト（NipCA）」

第1期生 日本財団中央アジアフェローシップ 6名

	氏 名	国籍	修士論文題目	就職先
1	ALIYEVA Tubu アリエヴァ・ トゥブ	アゼルバイ ジャン	The Development of Socially Sustainable Urban Tourism in Baku: Exploring Residents' Attitudes	Azerconnect, Market Research Senior Specialist
2	BOTEU Saltanat ボテウ・ サルタナート	カザフスタン	Environmentally Friendly Consumption from the Perspective Environmental Entrepreneurs in Kazakhstan	United Nations Development Programme in Kazakhstan, Communications Associate
3	ZAKARYANOV Ilyas ザカリヤノフ・ イリヤス	カザフスタン	Agritourism's Contribution to Sustainable Development in Rural Areas of the Republic of Kazakhstan: A Case Study of the East Kazakhstan Region	Astana Development Center, Deputy Chairman of Board
4	MURATBEKOVA Aigerim ムラトベコヴァ・ アイゲリム	キルギス	Exploring the Causes of School Bullying in Kyrgyzstan and Prevention Measures Through Policy and Actor Perspectives	Life Matters public foundation, Director
5	QAMBAROVA Nilufar カムバロヴァ・ ニルファール	タジキスタン	Understanding Gender Roles of Ismaili Pamiri Women in a Traditional Society	JICA Tajikistan Office, Program Officer
6	GELDIYEVA Mivegozel ゲルディエヴァ・ ミヴェゴゼル	トルクメニ スタン	The Emerging Role of Universities in International Relations: A Case Study of the University of Tsukuba	University of Tsukuba, Doctoral Student/ Secretary to the Ambassador, Embassy of Turkmenistan in Tokyo

人文社会科学部 国際地域研究専攻（修士課程）

Special Program in Japanese and Central Eurasian Studies

令和2（2020）年度10月入学者

「日本財団 中央アジア・日本人育成プロジェクト（NipCA）」

第2期生 日本財団中央アジアフェローシップ 7名

	氏 名	国籍	修士論文題目	就職先
1	ABDULLAYEV Ramil アブドゥラエフ・ラミル	アゼルバイ ジャン	Inclusive Education in State Universities in Azerbaijan: Current Status and Challenges	Ministry of Foreign Affairs of Azerbaijan, Attaché / COP29 Negotiation Team (Finance Track), Negotiator
2	MUKHAMEJANOVA Aizhan ムハメジャノヴァ・ アイジャン	カザフスタン	The Experience of Female Repatriation in Kazakhstan: A Case Study of the Mangystau Region	① Nazarbayev University, Research Assistant ② University of Tsukuba, Doctoral Student (2024.10~)
3	OSPAANOVA Sofya オスパノヴァ・ソフィヤ	カザフスタン	Organizational Transformation of the Kazakhstan-Japan Center for Human Development	Bank CenterCredit (BCC) (Almaty), IT systems analyst
4	NURLAN kzy Aliia ヌルラン キジ・アリヤ	キルギス	Women in Kyrgyz Parliament: The Role of Quota System in Gender Equality	One Village One Product (OVOP), Business Manager
5	OSMONOVA Gulzada オスモノヴァ・グルザダ	キルギス	The Perceptions of Child Labor and Its Reasons: A Case of Batken Region, Kyrgyzstan	North Park University, Master's degree student
6	SUIUNBEKOVA Saikal スイウンベコヴァ・ サイカル	キルギス	The Impact of JICA's "One Village One Product" Project on the Contribution of Females to Household Income in the Issyk-Kul Region, Kyrgyzstan	JICA One Village One Product, Branch office head
7	RAJABOVA Manizha ラジャボヴァ・マニジャ	タジキスタン	From Brain Drain to Brain Gain: Motivations of Tajik Students to Return Home	① Falcon and Associates, Dubai Business Associates Program. Innovation Associate, Consultant ② University of Tsukuba, Doctoral Student (2024.10~)

人文社会科学研究群 国際公共政策学位プログラム（修士課程）

Special Program in Japanese and Central Eurasian Studies

令和3（2021）年度 10 月入学者

「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト（NipCA）」

第3期生 日本財団中央アジアフェローシップ 6名

	氏 名	国籍	修士論文題目	就職先
1	BAZAROVA Asal バザロヴァ・アサル	ウズベキ スタン	Women's Entrepreneurial Experiences and the Roles of the Women's Entrepreneurship Center in Tashkent (WECT) in Creating Opportunities in Uzbekistan	JV LLC Agromir group of companies, Assistant at marketing department
2	MAVLONOVA Maftunakhon マヴロノヴァ・マフトゥナホン	ウズベキ スタン	Women in STEM in Uzbekistan: Understanding their decision to pursue STEM and their perception of its promotion	PEI Group, Research Associate
3	SUVANOVA Yulduzkhon スヴァノヴァ・ユルドゥズホン	ウズベキ スタン	Beyond Binaries: Discursive Strategies in Identity (Re-)Construction of Uzbek Women	JSCB TBC Bank, Funding & Investor Relations Specialist
4	NYUSSUPOV Assylzhan ニユスポフ・アシルジャン	カザフス タン	From Advocacy to Legislation: A Comprehensive Investigation of Civil Society's Role in Shaping Cyberbullying Law in Kazakhstan"	Wildberries, Software Engineer
5	SMANOVA Nargiza スマノヴァ・ナルギザ	カザフス タン	Legal and Social Elements of Police Response to Domestic Violence Against Women in Kazakhstan	① Kazakhstan Institute of Public Development, Leading Manager ② University of Tsukuba, Doctoral Student (2024.10~)
6	MALAKBOZOVA Munira マラクボゾヴァ・ムニラ	タジキス タン	Work Transition and Employability of Students: Insights from Recent Graduates and Employers from 2020-2022 in Tajikistan	Japan GlobeTel, Back Office Administrator / Helena School, Semi-full English teacher

医学医療系 公衆衛生学学位プログラム（修士課程）

Master's Program in Public Health

令和4（2022）年度4月入学者

「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト（NipCA）」

第4期生 日本財団中央アジアフェローシップ 1名

	氏 名	国籍	修士論文題目	就職先
1	BADIYEVA Aizada バディエヴァ・アイザダ	カザフ スタン	Association between hospital admissions due to acute myocardial infarction and meteorological parameters in Kazakhstan	Nazarbayev University School of Medicine, Biostatistics Instructor

人文社会科学研究群 国際公共政策学位プログラム（修士課程）

Special Program in Japanese and Central Eurasian Studies

令和4（2022）年度10月入学者

「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト（NipCA）」

第4期生 日本財団中央アジアフェローシップ 7名

	氏 名	国籍	修士論文題目	就職先
1	BERKINOV Jakhongir ベルキノフ・ジャホンギル	ウズベキ スタン	Digital Transformation of Local Government in Uzbekistan: A Case Study of Tashkent City Municipalities	① Center of Green Economy, Ministry of Economy and Finance of Uzbekistan. Chief Economist, Reporting Coordinating Specialist ② University of Tsukuba, Doctoral Student (2024.10~)
2	SAMATOVA Nodira サマトヴァ・ノディラ	ウズベキ スタン	Exploring the Relevance of Teacher's Digital Competence to Learning: Perspectives of Teachers and Students	"COMMON SENSE XUSUSIY BANDLIK AGENTLIGI" LLC
3	TEMERKHANOV Artur テメルカーノフ・アルトゥル	カザフ スタン	Criminalization of Street Harassment: Analysis of Legal Frameworks in Central Asia	Kazakhstan Football Federation, Sustainable Development Manager
4	BEKBOSSYNova Aruzhan ベクボシノヴァ・アルジャン	カザフ スタン	The Creative Economy of Kazakhstan: An Exploration of Opportunities and Challenges of Creative Entrepreneurship	Investbanq, Growth Marketing Manager
5	AITIMBETOVA Aidai アイティムベトヴァ・アイダイ	キルギス	Brain Drain in Kyrgyzstan: Why are Foreign University Degree Holders Leave the Kyrgyzstan Again?	Design, Monitoring, and Evaluation department, Good Neighbors Kyrgyz Republic
6	ALTYNBEK kyzy Cholpon アルチンベク キジ・ Cholpon	キルギス	C Investigative Journalism in the Kyrgyz Republic: Insights from Investigative Journalists and Activists-bloggers	Cooperation Canada, Events Coordinator
7	DAVRONOVA Farangis ダヴロノヴァ・ファランギス	タジキ スタン	Digital Activism in Tajikistan: Gender Advocacy of Youth on Social Media	① Asia-Plus, Freelance Multimedia Journalist ② University of Tsukuba, Doctoral Student (2024.10~)

人文社会科学研究群 国際公共政策学位プログラム（修士課程）

Special Program in Japanese and Central Eurasian Studies

令和5（2023）年度10月入学者

「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト（NipCA）」

第5期生 日本財団中央アジアフェローシップ 8名

	氏 名	国籍	修士論文題目	就職先
1	HASANOVA Nargiz ハサノヴァ・ナルギズ	アゼルバイジャン	Assessments for Education Quality: The Effectiveness of Summative Assessments in Azerbaijani Secondary Schools	ADA University, Graduate student
2	ABDULLAEV Shokhrukh アブドゥラエフ・ショフルフ	ウズベキスタン	Balancing the Scales: Work-Life Balance Perceptions of Government Employees in Uzbekistan	Republican Center for Spirituality and Enlightenment, Lead Specialist - Department for Coordination of Projects to Achieve Regional Consensus
3	ISKANDAROVA Feruza イスカンダロヴァ・フェルザ	ウズベキスタン	Realities and Challenges of the Merit-based Recruitment Process in the Civil Service in Uzbekistan	The University of World Economy and Diplomacy (UWED), International Academic Cooperation office, Partnership Coordinator
4	MIRAKILOVA Fatima ミラキロヴァ・ファティマ	ウズベキスタン	The Path to Gender Equality: Exploring the Underrepresentation of Female Managers in Higher Education Institutions in Uzbekistan	The University of World Economy and Diplomacy (UWED), International Academic Cooperation office, Partnership Coordinator
5	RAKHIMOV Mansurbek ラヒモフ・マンスルベク	ウズベキスタン	Political Blogging Under Government Pressure: Challenges and Adaptation Strategies in Post-2016 Uzbekistan	University of Business and Science, Teacher of international politics
6	BAIKURMANOV Bauyrzhan バイクルマノフ・バウイルジャン	カザフスタン	Human Capital Development in Rural Kazakhstan Through the "With a Diploma – to the Village" Program: A Case Study of the Zhetysay Region	KEME Logistics, Transport manager (logistic)
7	TURSYNALIEVA Azhar トゥルスナリエヴァ・アジャル	カザフスタン	Formality/Informality Nexus in Water Management Policy in Kazakhstan: A Case Study of Water Users Associations	Narxoz University, Sustainable Kazakhstan Research Institute, Coordinator
8	UZBEKOV Kuanysh ウズベコフ・クアニシ	カザフスタン	Institutional Barriers to Social Innovation Initiatives Combatting Child Poverty in Kazakhstan	Kazakhstan's youth parliament for water, Founder

人文社会科学研究群 国際公共政策学位プログラム（修士課程・博士後期課程）

Special Program in Japanese and Central Eurasian Studies

令和 6（2024）年度 10 月入学者

「日本財団 中央アジア・日本人育成プロジェクト（NipCA）」

第 6 期生 日本財団中央アジアフェローシップ 修士課程 7 名 博士後期課程 3 名

修士課程

	氏 名	国籍	研究テーマ	指導教員
1	AKRAMOVA Lola アクラモヴァ・ローラ	ウズベキ スタン	Internationalization of faculty members in public universities of Uzbekistan: International outreach	ダダバエフ ティムール
2	MUHAMMADIBROKHIMOV Botirjon ムハンマドイブロヒモフ ・ボティルジョン	ウズベキ スタン	Transition to Green Economy in Uzbekistan: Ensuring Green Growth in Industrial Sector	タック川崎 レスリー
3	RASHIDOVA Rukhsora ラシドヴァ・ルフソラ	ウズベキ スタン	Uzbekistan's transition to Sustainable Energy	塩谷哲史
4	AMANBAIULY Mukhtar アマンバイウリ・ムフタル	カザフ スタン	Climate change activism in Authoritarian countries: The case study of Kazakhstan	塩谷哲史
5	UMIRZAKOVA Nazym ウミルザコヴァ・ナズィム	カザフ スタン	Freedom vs. Stability: Examining Discourse on Press Restrictions in Kazakhstan After Bloody January (SDG 16 - Peace, Justice, and Strong Institutions)	ダダバエフ ティムール
6	YERZHOMARTOVA Ayazhan イェルジョマルトヴァ・ アヤジャン	カザフ スタン	Localization of Corporate Social Responsibility (CSR) Policy Practices among Joint-Share oil Companies in Kazakhstan	山本祐規子
7	OTKULBEK kzy Akylai オトククルベク キジ・ アクライ	キルギス	Aitysh: An Indigenous Practice of Singing Truths and Diverse Social Functions	ダダバエフ ティムール

博士後期課程

1	ABDURASULOVA Mekhriniso アブドゥラスロヴァ・ メフリニソ	ウズベキ スタン	Economic growth and bilateral cooperation drivers: Challenges and Prospects for Japanese Foreign Direct Investment in Uzbekistan's Key export service industry sectors	ダダバエフ ティムール
2	SMANOVA Nargiza スマノヴァ・ナルギザ	カザフ スタン	Verbal Abuse Against Women in Kazakhstan: A Case of Study of Daughters-in-Law and Mothers-in-Law Relationship	ダダバエフ ティムール
3	DAVRONOVA Farangis ダヴロノヴァ・ファランギス	タジキ スタン	Framing the Ideal Tajik Woman: How the State Regulate, Control Dress and Conduct of Women in Tajikistan	ダダバエフ ティムール

資料2 令和6(2024)年度 プロジェクト運営委員会委員リスト

敬称略

	役職等	氏 名	所属・役職
1	委員長	加藤 光保	副学長（教育担当）・理事・グローバル教育院長
2	副委員長	池田 潤	副学長（国際担当）・理事
3	副委員長	平松 祐司	副学長（医療担当）・理事・附属病院長
4	委員	坪内 孝司	大学執行役員・教育デザイン担当
5	委員	大根田 修	大学執行役員・国際局長
6	委員	高橋 智	大学執行役員・医学医療系長
7	委員	藤井 範久	大学執行役員・体育系長
8	委員	野呂 文行	大学執行役員・人間系長
9	委員	臼山 利信	大学執行役員・人文社会系長 本プロジェクト実務責任者
10	委員	櫻井 岳暁	国際室長
11	委員	関 瑞穂	国際局調整役
12	委員	泉 茂樹	教育推進部長
13	委員	中澤 秋夫	学生部長
14	委員	小田 竜也	附属病院副病院長・医学医療系教授
15	委員	市村 秀夫	附属病院国際部部長・医学医療系教授
16	委員	竹中 佳彦	学長補佐室長
17	委員	木村 真生子	人文社会ビジネス科学学術院長
18	委員	海後 宗男	人文社会科学研究群長
19	委員	栗原 克文	ビジネス科学研究群長

20	委員	山口 恵里子	人文・文化学群長
21	委員	潘 亮	社会・国際学群長
22	委員	山田 一夫	人間学群長
23	委員	木塚 朝博	体育専門学群長
24	委員	武井 陽介	医学群長
25	委員	佐藤 豊実	医学類長
26	委員	近藤 正英	公衆衛生学学位プログラムリーダー・ 医学医療系教授
27	委員	田宮 菜奈子	ヘルスサービス開発研究センター長・ 医学医療系教授
28	委員	東野 篤子	国際公共政策学位プログラムリーダー・ 人文社会系教授
29	委員	小野 正樹	本プロジェクト相談役・CEGLOC 長・ 人文社会系教授
30	委員	加藤 百合	本プロジェクト相談役・人文社会系教授
31	委員	ダダバエフ テイムール	本プロジェクト実務副責任者・人文社会系教授
32	委員	塩谷 哲史	本プロジェクト実務副責任者・人文社会系教授
33	委員	山本 祐規子	本プロジェクト実務副責任者・人文社会系准教授
34	委員	市川 政雄	本プロジェクト協力教員・医学医療系教授
35	委員	田村 洋貴	教育推進部教育推進課長
36	委員	関本 啓子	国際局国際室担当課長
37	委員	鷹巣 明美	国際局グローバル・コモンズ担当課長
38	委員	五十嵐 千恵子	学生部学生交流課長
39	委員	和田 裕二	人文社会エリア支援室長
40	委員	山口 剛	医学医療エリア支援室長

資料3 令和6(2024)年度 外部評価委員会委員リスト

敬称略

	役職等	氏名	所属・役職
1	委員長	當作 靖彦	カリフォルニア大学サンディエゴ校名誉教授
2	副委員長	小野澤 正喜	育英短期大学理事・名誉教授
3	委員	広沢 正行	独立行政法人国際協力機構（JICA） 東・中央アジア部長
4	委員	石塚 恵	外務省欧州局中央アジア・コーカサス室長
5	委員	鬼塚 宏一	つくば市長公室国際都市推進課長

資料4 令和6(2024)年度 プロジェクト・スタッフリスト

敬称略

運営体制	氏 名	職位・役職	役割
プロジェクト 実務責任者	臼山 利信	人文社会系長 教授	全体統括
プロジェクト相談役	小野 正樹	人文社会系 教授	全体統括補佐
プロジェクト相談役	加藤 百合	人文社会系 教授	全体統括補佐
プロジェクト 実務副責任者	ダダバエフ ティムール	人文社会系 教授	全体統括補佐
プロジェクト 実務副責任者	塩谷 哲史	人文社会系 教授	全体統括補佐
プロジェクト 実務副責任者	山本 祐規子	人文社会系 准教授	全体統括補佐
プロジェクト担当教員	宗野 ふもと	人文社会系 助教	プロジェクト推進業務 担当
プロジェクト コーディネーター ※2024年7月31日退職済み	梶山 祐治	インターナショナル アドミニストレーター	運営・企画・広報等 担当
プロジェクト コーディネーター ※2024年8月1日より	徳田 由佳子	インターナショナル アドミニストレーター	運営・企画・広報等 担当
実務スタッフ ※2024年7月31日退職済み	徳田 由佳子	非常勤研究員	留学生受入・派遣担当
実務スタッフ ※2024年6月1日より	大崎 果歩	非常勤研究員	留学生受入・派遣担当
実務スタッフ ※2024年7月31日退職済み	インセバイエヴァ ナフィーサ	非常勤研究員	論文指導サポート
実務スタッフ ※2024年8月31日退職済み	ソイポフ ジャスル	非常勤研究員	新規プロジェクト担当
支援スタッフ ※2025年3月31日退職済み	森川 昌子	非常勤職員	会計担当
支援スタッフ ※2024年9月15日退職済み	谷越 祥子	非常勤職員	総務担当
支援スタッフ ※2024年10月1日より	金田 尚子	派遣職員	総務担当
支援スタッフ	生永 妙子	非常勤職員	広報担当

令和6年度（2024.4 ～ 2025.3）
日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト（NipCA プロジェクト）
Nippon-Foundation Central Asia-Japan Human Resource Development Project
事業報告書

2025年6月24日 発行

監 修 臼山 利信
編集・校正 徳田 由佳子（主担当）、山本 祐規子、宗野 ふもと、大崎 果歩、生永 妙子
発 行 者 臼山 利信
発 行 所 筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト（NipCA）」
茨城県つくば市天王台 1-1-1
Tel: 029-853-4251
E-mail: info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp
Web: <https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp/>
印刷・製本 筑波大学総合事務センター



日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト
(NipCA Project)

〒305-8571 茨城県つくば市天王台 1-1-1 筑波大学

Tel. 029-853-4251

E-mail: info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp

Web: <https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp>